

原子力発電の将来検討分科会 提言の構成（2017 年 1 月 5 日付未定稿）へのコメント

井野瀬久美恵(第一部)

多くの内容が盛り込まれているために、全体として何を主張したいのか、見づらい印象を受けました。本課題には多くの視点があり、また立場や主張があるでしょうが、学会会議として何を問題視し、それをどう議論し、何を提言するのか、もう少し整理する必要があるように思います。

そのために、「I 提言の背景、II 現状及び問題点、既出の提言等との関係を含んだ記述、III 本提言の基本的スタンスと具体的な提言内容」という提言の通常形式、話の流れを念頭に置きながら、いただいた案を以下のように組み替えてみました。すべてを詳細に読んだ結果ではなく、あくまでも話の流れとしてご参考になればと考えての試行錯誤です。見当違いがあれば、どうかご放念ください。

2 月 10 日は関西での仕事時間の関係でスカイプでも委員会参加は難しく、欠席いたします。少しでもお役にたてれば幸いです。引き続きよろしくお願いいたします。

I 提言の背景

福島原発事故の解明と残された課題と原子力発電の将来との関連

——大気への放出と汚染水問題の状況や被災者の健康管理問題、帰還者問題などが、原発の将来との関連でどう議論されてきたか、そのなかで何が議論されていないか(本提言発出の意義)。

I これまでの議論の経過を踏まえた整理

1 福島原発事故とその引き起こした問題

1-1 福島原発事故の解明と残された問題 事故調報告 (②、③、④、⑦)、⑧

1-2 福島第 1 原発の今後の課題 ⑨、汚染水問題 (別分科会)、大気への放出の現状

1-3 被災者の健康管理問題が今後とも大きな課題 別分科会での検討成果

1-4 若い人が帰還しない現実をどう考えるか? 福島県データなど

II 学会会議の原発に関する考え方と福島事故

6 原子力平和利用に関わる日本学会会議の活動

(➡この項目の一部もここに入るように思います)

II 現状及び問題点、本提言の位置付け、視点の明確化など

原子力発電の安全性、リスク管理、経済性をめぐる多面的な検討をおこない、国際比較等を通じて明らかになってきた我が国の問題点、従来の視点に欠けていたもの、とりわけ国民の合意形成にむけたリスクコミュニケーションの視点など、本提言が何を問題視しているかの明確化。これまでの学会会議からの既出提言等との関係などを記す。

- 2 原子力発電は科学的に見て安全か（リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション）
 - 2－1 構造が複雑で、潜在的な巨大エネルギーを管理することの困難さをどう考えるか？
 - 2－2 天変地異のある国で安全が維持できるのか？ ⑤、⑥
 - 2－3 高レベル放射性廃棄物の処分に大きな困難がある（処分方法が決まらない）のではないかと？ 高レベル放射性廃棄物の総量抑制が必要ではないか？ ⑩
 - 2－4 事故があった際の重大性をどう考えるか？
 - 2－5 現在の原発の安全管理は万全か？（避難計画、テロ攻撃対策、稼働期間延長の耐久性評価を含む） 規制委員会等のヒアリング

3 原発は安い電力供給方法か

- 3－1 事故を想定した備えを含めて考えれば安い方法とは言えないのではないかと？ ①、⑬、⑭

4 原発は将来の日本のエネルギー供給に欠かせない役割を持つか？

- 4－1 再エネ供給が進み、必要性は薄らいでいるのではないかと？ ⑫

5 原発をめぐる合意形成（リスク管理とリスクコミュニケーション）

- これらの事項に関する国民的情報共有を踏まえた、合意形成をどう図っていくべきかと？ ⑮、⑯

II 学術会議の原発に関する考え方と福島事故

6 原子力平和利用に関わる日本学術会議の活動

- 6－1 原子力基本法と原子力 3 原則
- 6－2 原子力船むつ放射線漏れ事故と原子力基本法改正
- 6－3 その後の経過と福島事故における反省
- 6－4 日本学術会議として考えるべきこと

III 提言の内容

学術会議の原子力 3 原則、原子力基本法改正などをこれまでの学術会議の原発に関する考え方を検証して、今後の将来像についての具体的な提言とその根拠を示す。➡原案 6 がベースでは？
また、下記の並びは、(2)(3)(1)(4) でもいいかもしれません。

- (1) 原子力発電は日本のエネルギー供給に不可欠の役割を有するか？ ➡ 原案 4 内容
- (2) 原子力発電は科学的に見て安全か（リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション）
➡原案 2 内容
- (3) 原子力発電は科学的に見て経済性が高いとはいえない。 ➡原案 3 内容
- (4) 原子力発電をめぐる国民的合意形成とリスクコミュニケーション ➡原案 5